

平成22年度 形質転換植物デザイン研究拠点 共同利用・共同研究課題一覧(全30件)

	代表研究者	代表研究者所属	研究課題名
1	市村 和也	国立大学法人岡山大学 農学部	トマトにおけるMAPキナーゼ経路を介した青枯病菌に対する植物免疫調節機能
2	杉本 慶子	独立行政法人理化学研究所 植物科学研究センター	シロイヌナズナSUMO E3 ligase SIZ1とHPY2の機能分化に関する研究
3	鳴坂 義弘	岡山県農林水産総合センター 生物科学研究所 植物免疫研究グループ	デュアルR遺伝子システムによる耐病性作物の作出
4	高橋 史憲	独立行政法人理化学研究所 機能開発研究グループ	活性酸素種への応答に関わるタンパク質リン酸化酵素遺伝子群の解析とストレス耐性植物の作出
5	矢野 健太郎	明治大学 農学部	新規・機能未知遺伝子の情報伝達系および発現制御機構の同定手法の確立
6	中川 直樹	国立大学法人広島大学 生物圏科学研究科 生物科学研究所	ミトコンドリア関連変異による、実用作物の基礎代謝改変
7	富永 るみ	国立大学法人宮崎大学 IR推進機構	トマトの毛根形成の研究
8	本橋 令子	国立大学法人静岡大学 農学研究科	トマトの果実の果色変異体を用いたクロモプラスト分化メカニズムの解明
9	草野 都	独立行政法人理化学研究所 植物科学センター	メタボロミクスによる形質転換植物の代謝物変動モニタリング法
10	GOTO Derek	国立大学法人北海道大学 創成研究機構	植物寄生センチュウの感染機構の解明に関する研究
11	庄司 翼	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科	タバコアルカロイド制御遺伝子ERF/NIC2のトマト相同遺伝子の機能解析
12	小泉 望	公立大学法人大阪府立大学 生命環境科学研究科	栄養価向上を目指したナスの形質転換
13	山口 淳二	国立大学法人北海道大学 大学院先端生命科学研究院	トマトATL遺伝子によるC/N代謝制御の解明
14	鈴木 義人	国立大学法人茨城大学 農学部資源生物科学科	シバヤナギ形質転換系の確立と虫えい形成機構解析への応用
15	泉井 桂	近畿大学 先端技術総合研究所	C4ミニサイクルのC3植物(トマト)への導入による光合成能の増強
16	河野 重行	東京大学 大学院新領域創成科学研究科	アオサ藻綱ヒラアオノリのアグロバクテリウムを用いた形質転換系の開発
17	清末 知宏	学習院大学	シロイヌナズナ光周性花芽形成時期制御遺伝子によるジャガイモの塊茎形成制御
18	寺川 輝彦	北興化学工業株式会社 開発研究所	花生殖器官を改変した形質転換シクラメンの生物多様性影響評価法の確立
19	島田 照久	日本製紙株式会社 アグリ・バイオ研究所	耐乾燥性遺伝子組換えユーカリの特定網室における選抜評価試験
20	横田 明穂	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科	ソース及びシンク両組織機能を分子強化したジャガイモの生物多様性影響評価試験
21	島田 照久	日本製紙株式会社 アグリ・バイオ研究所	耐冷性遺伝子組換えユーカリの隔離ほ場栽培試験

	代表研究者	代表研究者所属	研究課題名
22	金子 幸雄	国立大学法人宇都宮大学 農学部	カラシナ×セイヨウナタネの正逆交雑種後代の遺伝子浸透に関する研究
23	高畑 義人	国立大学法人岩手大学 農学部	シミュレーションモデルの構築による導入遺伝子の拡散リスク評価
24	田部井 豊	農業生物資源研究所 遺伝子組換え研究推進室	遺伝子組換えナタネから我が国のカラシナへの遺伝子浸透の実態と生物多様性影響に関する考察
25	三石 誠司	公立大学法人宮城大学 食産業学部	遺伝子組換え技術の社会受容促進・リテラシー向上方策の検討と実践
26	佐々 義子	NPO法人くらしとバイオプラザ21	食の報道をめぐるメディアガイドラインの策定
27	真山 武志	NPO法人くらしとバイオプラザ21	リスクコミュニケーションを効果的にするための研修とコミュニケーション実践
28	仁田坂 英二	九州大学 大学院理学研究院	転移酵素遺伝子導入による江戸期の変化朝顔誕生の再現を通じた遺伝子組換え技術の国民的理解の促進
29	石川 達夫	独立行政法人農業生物資源研究所 遺伝子組換え研究推進室	遺伝子組換え食品の理解増進に及ぼす講義と双方向対話と食体験を通じたコミュニケーション効果の検証
30	小泉 望	大阪府立大学	コミュニケーション活動における組換え植物作成のビジュアル化